

夏の霧ヶ峰&入笠山ゆっくり紀行

8期 篠島益夫

昨年も7月20日過ぎの予定で同じコースを計画したものの天気予報悪化に遭遇して2度も日程を変更したが叶わず、断念したコースで霧ヶ峰の2000m近い稜線コースを愉しむという計画でした。

今回は7月29日(火)から8月1日(金)の3泊4日は好天に恵まれて予定通りの日程で愉しました。

私は昨年12月2日～20日と3月31日～4月18日と膝関節右左の関節置換手術を受けて入院しその後も通院リハビリを週3日間続けており術後は足腰にまだ自信のない体調でした。

7月29日(火)

こんな状態の私の我儘なゆっくり旅に付き合ってくれたのはワングル同期の高水間淑子さんと9期の山中重夫さんの2人で3人の山旅でした。高水間さんは京都駅で、山中さんは塩尻駅で合流して3人の旅はスタートしました。山中さんは住まいの八王子から車で合流してくれたので8月1日に富士見駅で解散するまで山中さんの車を利用させて頂きました。

10月現在もリハビリを続けている私には2000m近い稜線歩きの山旅は今年この旅が唯一になるでしょうが、それを承知で付き合ってくれる友人は彼らワングルOB以外にはなく有難い限りの永い御付き合いの賜物です。29日は15時過ぎの塩尻駅合流だったので余裕で霧ヶ峰に到着、富士山・八ヶ岳・中ア・南ア方面の展望所や翌日のコースの下見をしてから八島湿原に近い八島山荘に宿泊、夕食とそれぞれ好みのお酒で歓談して休みました。標高の関係でクーラーは無くても涼しく快適な睡眠でした。



7月29日 八島山荘の3人

7月30日(水)

この日は早めの朝食、山中車にて霧ヶ峰自然保護センターへ、私が以前は多く使った車山ビターセンター付近からのゴンドラリフトの利用は避けて今度は自然保護センターからの車山頂上への登山道を進んだ。

リフトに比べて霧ヶ峰最高点(h1925m)までの時間が1時間以上多く要するものの途中の高山植物への関心もあり、私としては初めてこのコースを選んだが、体力消耗の原因になったかも。大きな気象観測レーダードームのある頂上で休憩、以前にはなかった展望台も整備されており、この日も富士山、八ヶ岳、南ア、中ア、遠く北ア方面の展望はベストだった。この後、縦走路を大下りしてから登り返して蝶々深山に向かうが私のロウピッチが落ちてコースタイムとは無縁の時間をかけて蝶々深山頂上(h1835m)に着いた。山中さん、高水間さん共に私のロウピッチに同行するのが大変だったと思う。



7月30日 車山頂上の高水間さん



7月30日 蝶々深山頂上付近のウスユキソウ

縦走コースは蝶々深山以降も登り下りを繰り返して物見岩(h1780m)に向かうが、私のロウピッチは相変わらず膝関節の手術後の影響で下山の方が歩きも不安定になり登り以上に時間が掛かり体力も消耗しやすいでした。物見岩からは八島湿原に向かって一方的な下りなので予想外の時間が掛かり、途中の湿原に流れ込む小川に出た時はホットして頭から水をかぶり加熱した体温を下げて気を取り直して八島湿原に向かいました。

八島湿原に沿った登山道はフジバカマ、ベニバナシモツケ、オニユリ、ツリガネニンジン、ヤナギランなど夏の花にあふれていたので、それを撮るにも多少の時間が掛かり、私のロウピッチのせいで自然保護センターを出てから宿の八島山荘まで450分も掛かった。

車山頂上・蝶々深山・物見岩・小川の水場・奥霧小屋で各30分ほど休憩したことも時間が掛かり過ぎた原因ですが、こんな不調の私に付き合って歩いてくれた仲間には感謝しかありません。八島山荘下の湿原湖畔には「あざみの歌」の歌碑があった。



7月30日 八島湿原のフジバカマ

7月31日（木）

この日は早めの仕事に向かう山荘の車に便乗させて貰って前日に車を置いた自然保護センターへ向かい、ここを基地に歩きで、忘れじの丘・植物研究路を回り、保護センターの中も見学して霧ヶ峰高原の成り立ちなどを知った。過去にも100名山踏破がらみや子供達とのドライブで何度も訪れたエリアではあるが泊まりで霧ヶ峰でゆっくりしたのはこの旅が初めてだった。

整備されたグライダー滑空場もあったが29日以来、飛んでいる姿は見なかった、まだ学生たちの合宿シーズンではなかったからであろう。

レストランも期待に反してオープンしている所が少なく、八島山荘に戻って隣のレストランで昼食を済ませてから今日の宿泊地である入笠山に山中車で向かった。南アの最北に位置して中央線を挟んで北側の八ヶ岳と対面する位置にある山であるが、私がこれまで南ア登山の帰路や中ア登山と併せて孫達と来ており今度が4回目になる。山中さん、高水間さんには初めてのエリアである。頂上とその周辺部は高原状の山で湿原も多く、植生が豊富な山である。

宿の入笠湿原前やまびこ荘に着くと、頂上への登山コースの取付きが変わっているというので主人に聞いて見ると食事まではまだ時間があるので自分の車で案内してくれるという。

八ヶ岳展望所や首切清水やその近くの首切登山口を確認してから大阿原湿原を案内してくれた。私も孫達を連れて湿原の木道を歩いた事はあるが少し進むとかなり不気味になってくるので何時も途中で引き返していたが、宿の主人は慣れたものでどんどん遊歩道を進み、湿原の乾燥化に伴って増えたコリンゴやヤマナシの林

や湿原に小山のように盛り上がったモウセンゴケ群生地を案内してくれた。私は知らないまま孫を連れて行ったりしていたが案内されて知つて見ればなかなか見ごたえのある湿原であった。薄暗くなってきて熊の出没が多い場所だからもう宿を引き返そうというので宿へ戻り、入浴を済ませてからいつもの通り夕食宴会となつた。



7月31日 霧ヶ峰自然研究路のヤナギラン

8月1日（金）

この日のメインは入笠山頂上への登山と入笠湿原周辺の植物群の探勝である。頂上へは昨日宿の主人に案内して貰った首切登山口から登り40分ほどで快晴の広い頂上へ出た。展望は南アや八ヶ岳、中アや富士山など全てが視界の内だった。12時過ぎには富士見駅で無事解散、皆さんのお陰です。



8月1日 入笠山頂上の180度大展望



左上 8月1日 入笠湿原のクサレダマ群落

右上 8月1日 入笠湿原のレンゲショウマ

終わり